

大雨による災害と防災情報に関するアンケート

報告書

目次

調査の要点	1
1. 調査目的	2
2. 調査手法	3
3. 調査結果	4
3. 1 回答者の属性	4
3. 2 リアルタイム雨量・水位情報サイトの認知	5
3. 3 リアルタイム雨量・水位情報サイトの利用意向	7
3. 4 気象警報に対する認知	9
3. 5 「市町村警報」に対する認知	11
3. 6 避難勧告やハザードマップに対する考え方	13
[附属資料]	
素集計表	

2010年4月

静岡大学防災総合センター牛山研究室

調査の要点

背景・調査手法

- インターネット社会調査サービスの goo リサーチを利用した調査。2004 年，2007 年にもほぼ同様な調査を実施しており，今回は 3 回目。
- 対象者は，盛岡市(近年大きな豪雨災害がない)，静岡市(地震災害が強く警告されているが近年大きな豪雨災害はない)，名古屋市(2000 年・2008 年に市内で数千～数万棟の浸水被害が発生)の在住者。回答依頼メールは 2010 年 3 月 2 日に配信，有効回答数は 539 件(盛岡 181，静岡 180，名古屋 178)。

主な結果

- 豊富な雨量・水位情報を提供している「川の防災情報」は 82.2%の回答者が認知しておらず，2004 年，2007 年の結果とほとんど変わらない。全国の河川水位が公開されていること自体も，82.4%の回答者が認知していない。
- リアルタイム雨量・水位情報の存在を認知しても，積極的な利用意向は 1 割程度。2007 年とほぼ同様な傾向。
- 気象警報の意味を正しく理解しているのは 45.8%。回答者の 46.6%は警報の地域区分の大きさを現実より細かいと認識している。
- 「市町村警報」になることの認知率は 14.7%。このことで「現在よりも参考にしやすくなる」と期待感を持っている回答者は 60.5%。
- 大雨災害時の避難勧告は「空振り容認積極派」が 76.3%。避難開始タイミングの判断については「行政判断派」が 64.6%。ハザードマップについては 93.3%が「公開積極派」。

※本報告書は速報としてとりまとめたものであり，今後修正される場合がある。

※丸め誤差により，集計表やグラフに示された比率の合計が 100.0%とならない場合がある。

1. 調査目的

近年、気象庁、国土交通省、都道府県などにより、雨量、水位をはじめとしたリアルタイム情報の公開が積極的に行われている。これらの情報整備では、リアルタイム観測情報を活用して、災害からの避難や被害軽減がなされることが期待されていると考えられる。そうした情報を実際に被害軽減に役立てるためには、まず利用者に認知・利用してもらう必要があるが、その実態についての調査結果は多くはない。たとえば、情報提供者側による「情報に対する満足度」に関する調査例はあるが(気象庁, 2005)、「提供されている情報のことをある程度知っており、その情報を積極的に使いたいと考え、使い勝手についての意見を持っている」といった、どちらかというとな積極的な情報利用者モデルが前提となっているようである。しかし、災害後の被災地域の調査例では、すでに公開されているはずの情報の整備が今後必要であると回答する人が多数現れるといった現実もある(村上・杉尾, 2007)。既に提供されている情報がどの程度認知され、それらの情報に対する利用意向がどの程度あるのか、情報の整備実態に応じた実証的研究を重ねる必要がある。

筆者らは以前から、豪雨災害の被災者や、市町村防災担当者を対象にリアルタイム雨量・水位情報等の認知、利用実態、利用意向についての調査を行っており、これらの情報があまり認知されておらず、認知されても必ずしも積極的に利用されないことを示唆してきた。前回この観点からの調査を行ったのが 2007 年であり(牛山ら, 2008)、既に 3 年あまり経過した。豪雨災害情報をめぐる情勢も変化していることから、今回、近年のリアルタイム雨量・水位情報や、各種災害情報に対する認知状況、利用意向について調査した。

なお本報告書は、調査結果のうち、全回答者の主な素集計結果を中心に、速報としてとりまとめたものである。

参考文献

気象庁：防災気象情報の満足度に関する調査報告書，2005。

村上啓介，杉尾哲：平成 17 年台風 14 号時の住民の避難行動と防災意識について，災害情報，No.5，pp.67-75，2007。

牛山素行・吉田亜里紗・國分和香那，2008：豪雨防災情報に対するインターネット利用者の認識，水工学論文集，No.52，pp.445-450。

2. 調査手法

調査は、インターネットを通じた社会調査サービスである goo リサーチ(NTT レゾナント株式会社・株式会社三菱総合研究所 共同運営)を利用した。同サービスに登録しているモニターに対して調査依頼のメールを配信し、これに応じた回答者から先着順に一定数までの回答を受け付ける方式で行われる。

対象者は、盛岡市(近年大きな豪雨災害がない)、静岡市(地震災害が強く警告されているが近年大きな豪雨災害はない)、名古屋市(2000年・2008年に市内で数千～数万棟の浸水被害が発生)の在住者とした。回答依頼メールは2010年3月2日に配信、3月3日締切で、有効回答数は539件(盛岡181、静岡180、名古屋178)だった。なお、ここで用いた回収方法は割当法、すなわちあらかじめ回収数を決め、予定回収数に達した時点で受け付けを終了する、あるいは予定数に達するまで依頼を続けるという方法である。従って印刷したアンケートを配布する際のような、「配布数」や「回収率」という概念はそもそも存在しない。

なお、自由回答を除き、すべての質問について回答を入力しないと次画面に進めない仕様としており、「無回答」は存在しない。

なお、筆者らはこれまでにほぼ同様な方法で、以下2回の調査を行っている。

●2004年調査

対象者：全国

依頼メール：2004年3月17日配信、同18日〆切

有効回答：407件

●2007年調査

対象者：全国

依頼メール：2007年2月28日配信、3月1日〆切

有効回答：528件

以下、前者を「2004年調査」、後者を「2007年調査」と呼び、一部の設問について今回の調査結果と比較する。

3. 調査結果

3. 1 回答者の属性

回答者の年代は、20代から40代で8割弱を占め、青壮年層に偏った年代構成となっている。性別は、男性52.3%、女性47.7%と、大きな偏りはない。インターネット上での調査であることから、基本的に全員が何らかの形でインターネットを利用している回答者である。

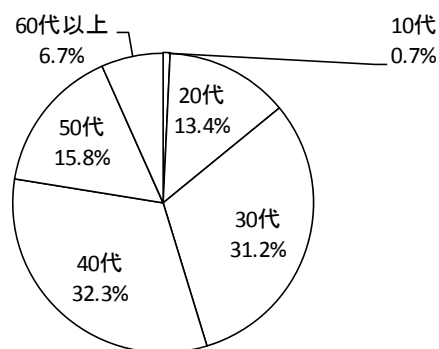


図 1 回答者の年代構成

3. 2 リアルタイム雨量・水位情報サイトの認知

豊富な雨量・水位情報を提供している「川の防災情報」は 82.2%の回答者が認知しておらず、2004 年、2007 年の結果とほとんど変わらない。全国の河川水位が公開されていること自体も、82.4%の回答者が認知していない。

リアルタイム雨量・水位情報サイトとして、Yahoo!天気情報(<http://weather.yahoo.co.jp/weather/index.html>), tenki.jp(<http://tenki.jp/>), 防災情報提供センター(<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>), 川の防災情報(<http://www.river.go.jp/>), 川の防災情報・携帯電話版(<http://i.river.go.jp/>)の 5つを挙げ、それぞれのリンク先を参照してもらった上で、「あなたは以下のホームページを見たことがありますか」と尋ねた。

Yahoo 天気情報については「よく見ている」、「見たことはある」がほとんど(87.9%)を占めるが、防災情報提供センターは「今回のアンケートで初めてその存在を知った」が 65.1%, 川の防災情報は同 82.2%と、認知していない回答者が多数を占める(図 2)。これらの傾向は、2004 年調査、2007 年調査とほとんど変化していない(図 3)。

各サイトの内容に対する認識を知るために、「前問にある「防災情報提供センター」や「川の防災情報」のページでは、<1>テレビやインターネットの一般的な天気予報などで伝えられるよりもはるかに多くの観測地点における雨量の情報、<2>全国各地の河川の水位の情報、が公開されています」と説明した上で、これらの事実の認知状況を尋ねた。雨量、水位ともに、「今回のアンケートで初めてその存在を知った」が 8割前後を占め、ほとんど認知されていなかった。これについても、2007 年調査とほとんど変化していない。

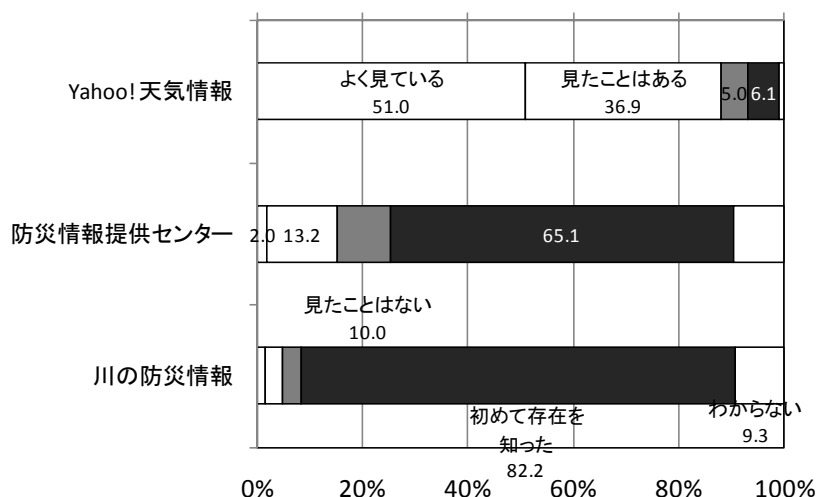


図 2 リアルタイム雨量・水位情報サイトの認知(2010 年)

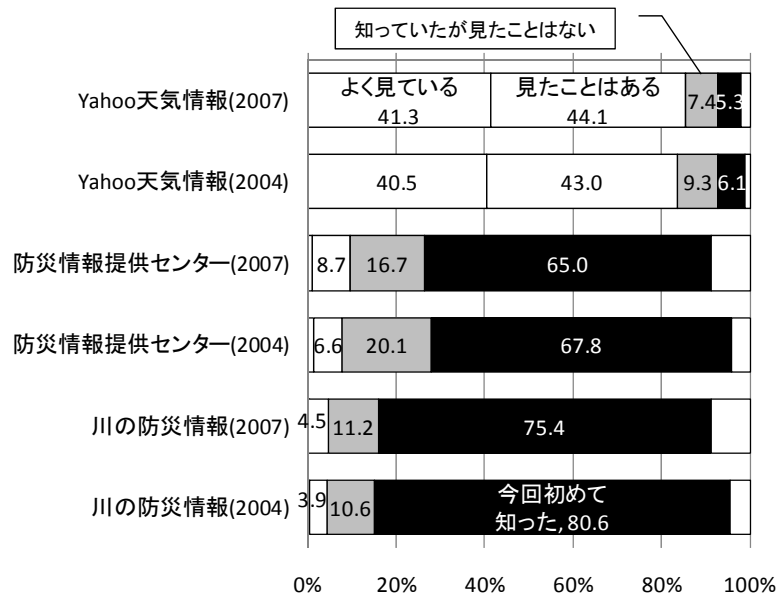


図 3 リアルタイム雨量・水位情報サイトの認知(2004,2007年)

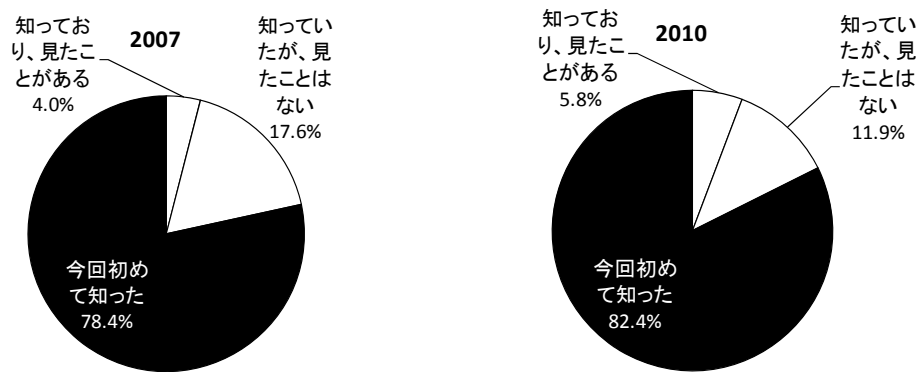


図 4 全国の河川水位情報が公開されていることに対する認知

3. 3 リアルタイム雨量・水位情報サイトの利用意向

リアルタイム雨量・水位情報の存在を認知しても、積極的な利用意向は1割程度。2007年とほぼ同様な傾向。

このアンケートを通じて、回答者はリアルタイム雨量・水位情報が公開されていることを認知したことになる。そこで、これらの情報の利用意向を調べるため、「あなたは、大雨による災害が起こりそうな時に、パソコンや携帯電話から、これらの情報を実際に見て参考にしたいと思いますか」と尋ねた。雨量、水位のそれぞれについてパソコンからの参照、携帯電話からの参照意向を整理した結果が図5である。

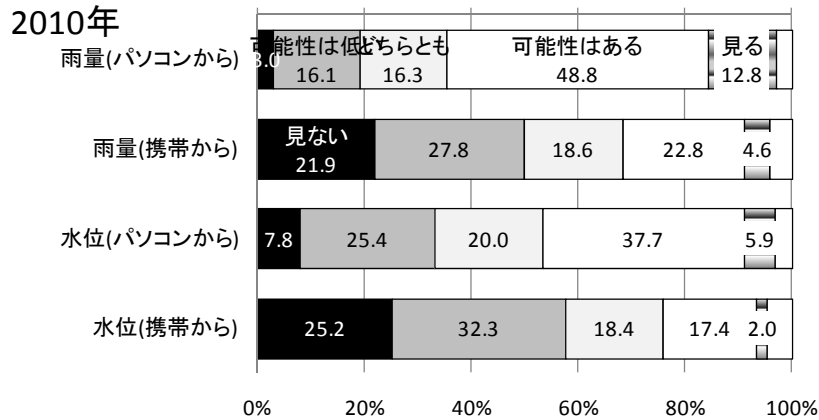


図5 リアルタイム雨量・水位情報の利用意向(2010年)

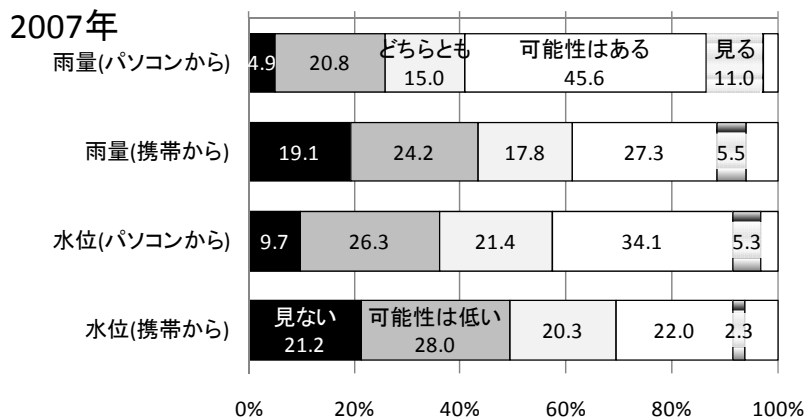


図6 リアルタイム雨量・水位情報の利用意向(2007年)

「確実に見ると思う」(図中では「見る」)という積極的な利用意向はいずれも1割程度で、「見る可能性はあると思う」(同「可能性はある」)との合計を利用意向有りで見なしても、

雨量をパソコンからの場合が 61.6%となるのみで、他は過半数に満たない。特に携帯からの参照については、「確実に見ないと思う」(同「見ない」), 「見る可能性は低いと思う」(同「可能性は低い」)というネガティブな回答の方が、「確実に見ると思う」, 「見る可能性はあると思う」より明確に多い。

この傾向は、2007年調査とほとんど変わらない。リアルタイム雨量・水位情報が公開されていることを知らせても、利用者はその情報に対して積極的な利用意向を示さないことがあらためて確認された。

3. 4 気象警報に対する認知

気象警報の意味を正しく理解しているのは 45.8%. 回答者の 46.6%は警報の地域区分の大きさを現実より細かいと認識している.

「気象庁から、大雨警報、暴風警報など、気象に関する警報が発表されることがあります。この「警報」とはどのような意味を持つ情報だと思いますか」と尋ねた結果が図 7 である。警報とは、「重大な災害の起るおそれのある旨を警告して行う予報」(気象業務法第二条 7 項)なので、この質問のいわば「正解」は「重大な災害が起るおそれのあることを警告する情報」である。なお、「注意報」とは「災害が起るおそれがある場合にその旨を注意して行う予報」(気象業務法施行令第四条)である。注意報に当たる「災害が起るおそれがあることを注意する情報」と、「災害が起るほどではないが念のため注意すること」の合計が 45.3%である。つまり、全体の半数弱は警報について本来持つ意味よりも弱く認識していることになる。

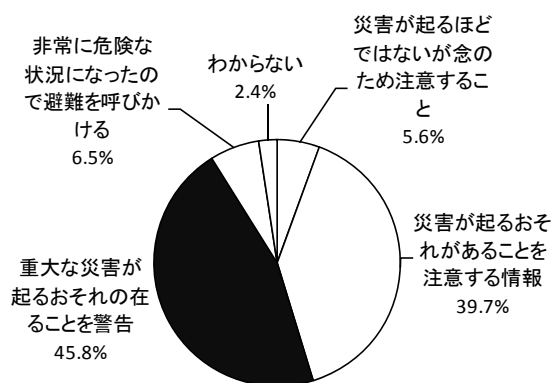


図 7 気象警報の意味に対する認知

「気象に関する警報は、どの程度の地域的な広がり単位として発表されていると思いますか」と尋ねた結果が、図 8 である。この調査を行った時点では、気象警報の市町村単位での発表は行われていないので、「県内を複数の地域に区分するくらい」がもっとも現状に近い選択肢であるが、これを選択した回答者は 43.2%と半数に満たない。むしろ、「市町村単位くらい」、「市町村内をさらに複数の地域に区分するくらい」という、現実よりも細かな地域単位で発表されていると認識している回答者が 46.6%と、現状を正しく認知している回答者と同程度存在する。すなわち、全体の半数程度は、気象警報の発表単位が市町村単位に「細分化」されても、そのことを「現状からの改善」だと思わないという可能性がある。

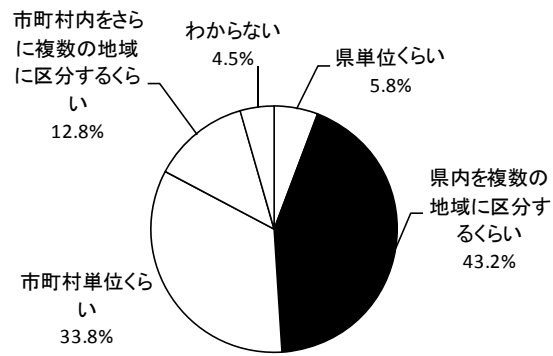


図 8 警報の地域区分に対する認知

3. 5 「市町村警報」に対する認知

「市町村警報」になることの認知率は 14.7%. このことで「現在よりも参考にしやすくなる」と期待感を持っている回答者は 60.5%.

「気象庁から発表される警報は、現在は都道府県内を数区域に区分して(二次細分区と言います)、区域を単位として発表されています。今年(2010年)の5月末からは、区域がさらに細分化されて、個別の市町村を単位として発表されるようになります」と説明した上で、「あなたはこのことをご存じでしたか」と尋ねた結果が図 9 である。いわゆる「市町村警報」が出るようになることに対する認知率を意味するが、このことを認知していたのは 14.7%に過ぎなかった。

この質問に続き、「気象に関する警報が、市町村を単位として発表されるようになることは、現在(県内を数区域に区分しての発表)と比べて、あなた自身にとって参考にしやすくなると思いますか」と尋ねた結果が、図 10 である。60.5%は「現在よりも参考にしやすくなる」と期待感を持っているが、「現在と変わらない」、「現在よりむしろ参考にしにくくなる」といった期待感を持っていない回答者も 31.7%と少なくない。

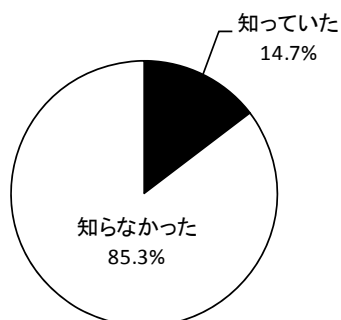


図 9 「市町村警報」になることの認知

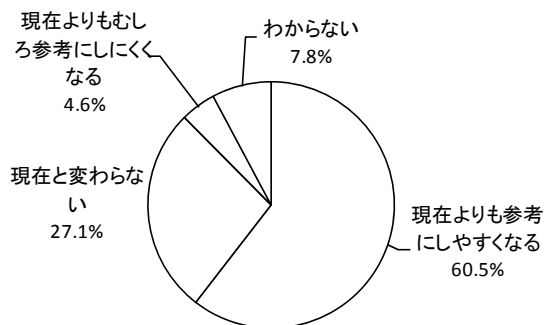


図 10 「市町村警報」に対する期待

「気象に関する警報が発表されたことを知るための情報メディアとして、あなたは何を使うと思いますか」と尋ねた結果が図 11 である。「もっとも利用するメディア」ではテレビが 69.2%と多数を占める。「二番目に利用するメディア」ではインターネットが 42.9%と最も多いが、過半数には満たない。

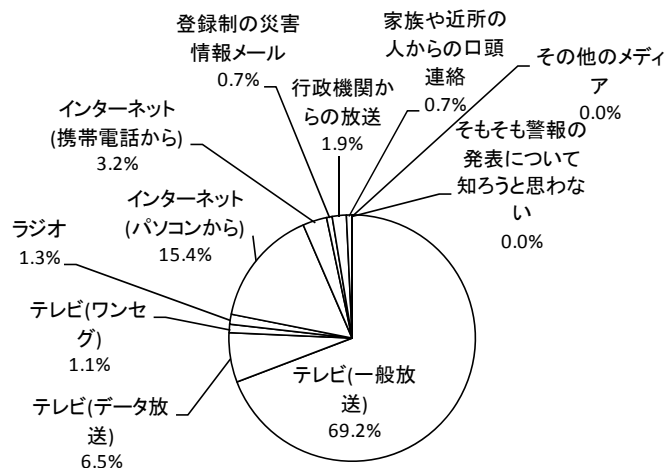


図 11 警報を入手する情報源(もっとも利用するメディア)

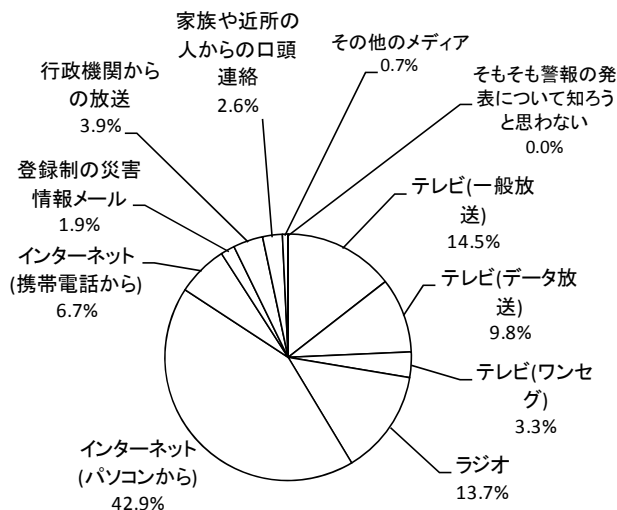


図 12 警報を入手する情報源(二番目に利用するメディア)

3. 6 避難勧告やハザードマップに対する考え方

大雨災害時の避難勧告は「空振り容認積極派」が 76.3%. 避難開始タイミングの判断については「行政判断派」が 64.6%. ハザードマップについては 93.3%が「公開積極派」.

「防災については、いくつか異なった考え方があります。以下ではいくつかの論点について、それぞれ対立する二つの考え方を挙げます。仮にあなた自身が災害に直面する当事者だったと仮定して、あえてどちらか一方を選ぶとすれば、どちらに賛成されますか」と説明した上で、3つの対立軸について尋ねた結果が以下である。

大雨による災害時の避難勧告については、「避難勧告は、結果的に「空振り」に終わってもよいから、できるだけ積極的に出すべきである」といういわば「空振り容認積極派」が 76.3%と多数を占め、「避難勧告は、「空振り」になると非常に迷惑なので、できるだけ慎重に出すべきである」は 23.7%となった。

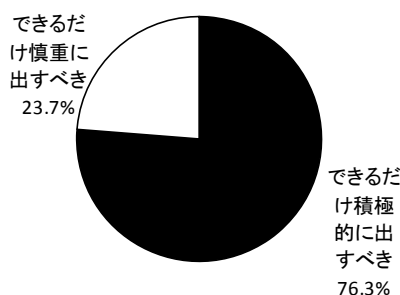


図 13 大雨による災害時の避難勧告について

大雨による災害時に避難を開始するタイミングの判断については、「避難を開始するタイミングを住民が判断することは難しいので、行政が責任をもって判断すべきである」という、いわば「行政判断派」が 64.6%と過半数を占め、「避難を開始するタイミングは、最終的には住民が判断すべきであり、行政の仕事はそれをサポートすることである」は 35.4%だった。

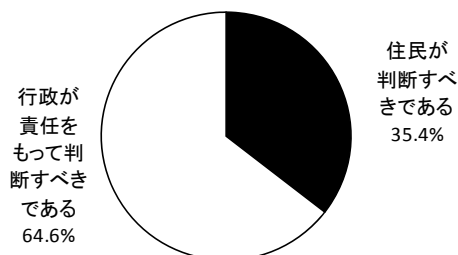


図 14 大雨による災害時に避難を開始するタイミングの判断について

ハザードマップについては、「ハザードマップは、災害時の備えを考える上で役に立つので、積極的に公開すべきだ」という、いわば「公開積極派」が 93.3%と圧倒的多数を占めており、「ハザードマップが公開されると、地域のイメージが悪くなったり、地価が下がったりするかもしれないので、公開は慎重であるべきだ」は 6.7%にとどまっている。

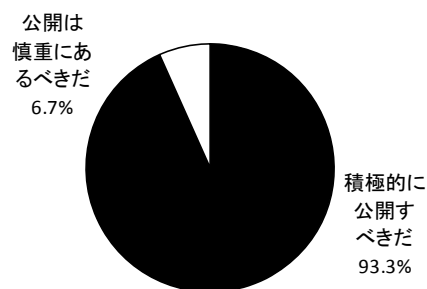


図 15 ハザードマップについて

なお、当研究室で 2008 年末に全国市町村の防災担当者を対象に行った調査(郵送送付・回収法, 2008 年 12 月 22 日送付, 2009 年 4 月末締切, 有効回答 1244 件, 回収率 68.9%)でも、地域防災に対する考え方を、相反する 2 つの選択肢から選んでもらう形式の質問を行っている(図 16)。市町村防災担当者の意識としても、避難勧告については積極派が多数を占めている。一方、避難の判断については、「住民判断派」と「行政判断派」がほぼ半々となっており、今回の住民対象調査の結果とは傾向がやや異なる。

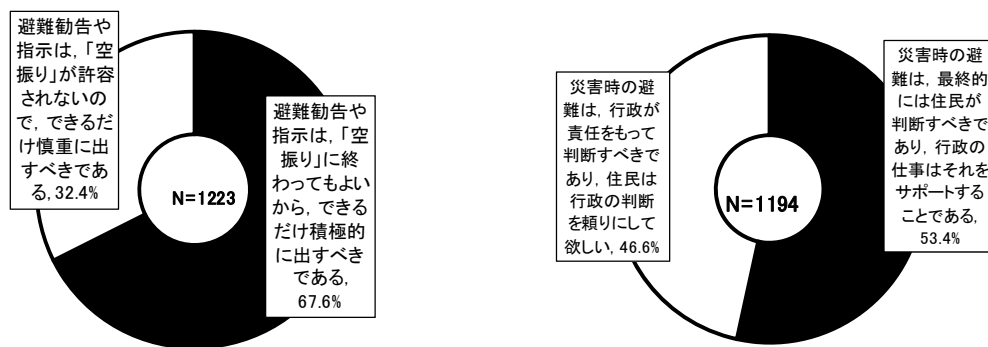


図 16 市町村防災担当者の避難勧告(左)・避難の判断(右)に対する考え方

引用文献

静岡大学防災総合センター牛山研究室ほか：市町村役場における豪雨災害情報の利活用状況について、<http://disaster-i.net/notes/090803report.pdf>, 2009.

謝辞

本調査にご回答いただいた，goo リサーチ登録モニターの皆様には感謝します。

本報告書のとりまとめに当たっては，静岡大学防災総合センターの栗田幸将学術研究員にご協力をいただきました。なお，本調査の一部は，科学研究費補助金基盤研究(B)「接続可能な地域防災教育システムの構築に関する理論的検証と実践的レシピの提案」(研究代表者・矢守克也)の研究助成によるものです。

付属資料

(1) 素集計表

素集計表

◆このアンケートは、主に、洪水・浸水・崖崩れ・土石流など大雨によって引き起こされる災害と防災情報についてお伺いするものです。

問1項目1. あなたがお住まいの地区は、次に挙げるような災害に対して安全だと思いますか。

-地震

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	安全	44	8.2
02	まあ安全	181	33.6
03	やや危険	123	22.8
04	危険	141	26.2
05	わからない	50	9.3
	合計	539	100.0%

問1項目2. あなたがお住まいの地区は、次に挙げるような災害に対して安全だと思いますか。

-大雨・洪水

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	安全	118	21.9
02	まあ安全	228	42.3
03	やや危険	126	23.4
04	危険	45	8.3
05	わからない	22	4.1
	合計	539	100.0%

問1項目3. あなたがお住まいの地区は、次に挙げるような災害に対して安全だと思いますか。

-がけ崩れ・土石流

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	安全	242	44.9
02	まあ安全	202	37.5
03	やや危険	53	9.8
04	危険	20	3.7
05	わからない	22	4.1
	合計	539	100.0%

問2項目1. あなたが現在お住まいのご自宅は、次に挙げるような災害に襲われる可能性があると思いますか。

-地震によって家が倒壊する

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	可能性は非常に低い	63	11.7
02	可能性は低い	225	41.7
03	可能性は高い	138	25.6
04	可能性は非常に高い	67	12.4
05	わからない	46	8.5
	合計	539	100.0%

問2項目2. あなたが現在お住まいのご自宅は、次に挙げるような災害に襲われる可能性があると思いますか。

-大雨の際に家が浸水する

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	可能性は非常に低い	210	39.0
02	可能性は低い	234	43.4
03	可能性は高い	62	11.5
04	可能性は非常に高い	20	3.7
05	わからない	13	2.4
合計		539	100.0%

問2項目3. あなたが現在お住まいのご自宅は、次に挙げるような災害に襲われる可能性があると思いますか。

-がけ崩れや土石流によって家が壊される

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	可能性は非常に低い	313	58.1
02	可能性は低い	169	31.4
03	可能性は高い	35	6.5
04	可能性は非常に高い	6	1.1
05	わからない	16	3.0
合計		539	100.0%

問3. あなたは以下のホームページを見たことがありますか。

※それぞれのサイトをご覧になってから、お答えください。

<http://weather.yahoo.co.jp/weather/index.html>

<http://tenki.jp/>

<http://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>

<http://www.river.go.jp/>

<http://i.river.go.jp/>

問3項目1. あなたは以下のホームページを見たことがありますか。

-Yahoo!天気情報

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	よく見ている	275	51.0
02	見たことはある	199	36.9
03	存在は知っていたが、見たことはない	27	5.0
04	今回のアンケートで初めてその存在を知った	33	6.1
05	覚えていない・わからない	5	0.9
合計		539	100.0%

問3項目2. あなたは以下のホームページを見たことがありますか。

-tenki.jp

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	よく見ている	45	8.3
02	見たことはある	85	15.8
03	存在は知っていたが、見たことはない	27	5.0
04	今回のアンケートで初めてその存在を知った	332	61.6
05	覚えていない・わからない	50	9.3
合計		539	100.0%

問3項目3. あなたは以下のホームページを見たことがありますか。

-防災情報提供センター

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	よく見ている	11	2.0
02	見たことはある	71	13.2
03	存在は知っていたが、見たことはない	54	10.0
04	今回のアンケートで初めてその存在を知った	351	65.1
05	覚えていない・わからない	52	9.6
合計		539	100.0%

問3項目4. あなたは以下のホームページを見たことがありますか。

-川の防災情報

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	よく見ている	8	1.5
02	見たことはある	18	3.3
03	存在は知っていたが、見たことはない	20	3.7
04	今回のアンケートで初めてその存在を知った	443	82.2
05	覚えていない・わからない	50	9.3
合計		539	100.0%

問3項目5. あなたは以下のホームページを見たことがありますか。

-川の防災情報・携帯電話版

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	よく見ている	5	0.9
02	見たことはある	8	1.5
03	存在は知っていたが、見たことはない	19	3.5
04	今回のアンケートで初めてその存在を知った	449	83.3
05	覚えていない・わからない	58	10.8
合計		539	100.0%

前問にある「防災情報提供センター」や「川の防災情報」のページでは、
<1>テレビやインターネットの一般的な天気予報などで伝えられるよりもはるかに多くの観測地点における雨量の情報
<2>全国各地の河川の水位の情報
が公開されています。

問4項目1. あなたは、このような情報が公開されていることをご存じでしたか。

-<1>一般の天気予報で伝えられるよりもはるかに多くの観測地点における雨量

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	知っており、見たことがある	47	8.7
02	存在は知っていたが、見たことはない	69	12.8
03	今回のアンケートで初めてその存在を知った	423	78.5
合計		539	100.0%

問4項目2. あなたは、このような情報が公開されていることをご存じでしたか。

-<2>全国各地の河川の水位

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	知っており、見たことがある	31	5.8
02	存在は知っていたが、見たことはない	64	11.9
03	今回のアンケートで初めてその存在を知った	444	82.4
合計		539	100.0%

現在ほとんどの都道府県では、その県が独自に観測している雨量や河川の水位の情報を、ホームページでリアルタイムに公開しています。

問 5. あなたのお住まいの都道府県または他の都道府県のホームページ内で、このようなページを見たことがありますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	よく見ている	12	2.2
02	見たことはある	53	9.8
03	存在は知っていたが、見たことはない	57	10.6
04	今回のアンケートで初めてその存在を知った	385	71.4
05	覚えていない・わからない	32	5.9
合計		539	100.0%

先の設定でも紹介したように、「川の防災情報」などのページでは、多くの観測地点における雨量の情報や、全国各地の川の水位の情報が公開されています。

問 6 項目 1. あなたは、大雨による災害が起こりそうな時に、パソコンや携帯電話から、これらの情報を実際に見て参考にするとお考えですか。

-一般の天気予報で伝えられるよりはるかに多くの観測地点における雨量(パソコンから)

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	確実に見ないと思う	16	3.0
02	見る可能性は低いと思う	87	16.1
03	どちらとも言えない	88	16.3
04	見る可能性はあると思う	263	48.8
05	確実に見ると思う	69	12.8
06	わからない	16	3.0
合計		539	100.0%

問 6 項目 2. あなたは、大雨による災害が起こりそうな時に、パソコンや携帯電話から、これらの情報を実際に見て参考にするとお考えですか。

-全国各地の河川の水位(パソコンから)

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	確実に見ないと思う	42	7.8
02	見る可能性は低いと思う	137	25.4
03	どちらとも言えない	108	20.0
04	見る可能性はあると思う	203	37.7
05	確実に見ると思う	32	5.9
06	わからない	17	3.2
合計		539	100.0%

問 6 項目 3. あなたは、大雨による災害が起こりそうな時に、パソコンや携帯電話から、これらの情報を実際に見て参考にするとお考えですか。

-一般の天気予報で伝えられるよりはるかに多くの観測地点における雨量(携帯電話から)

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	確実に見ないと思う	118	21.9
02	見る可能性は低いと思う	150	27.8
03	どちらとも言えない	100	18.6
04	見る可能性はあると思う	123	22.8
05	確実に見ると思う	25	4.6
06	わからない	23	4.3
合計		539	100.0%

問 6 項目 4. あなたは、大雨による災害が起こりそうな時に、パソコンや携帯電話から、これらの情報を実際に見て参考にするとお考えですか。

-全国各地の河川の水位(携帯電話から)

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	確実に見ないと思う	136	25.2
02	見る可能性は低いと思う	174	32.3
03	どちらとも言えない	99	18.4
04	見る可能性はあると思う	94	17.4
05	確実に見ると思う	11	2.0
06	わからない	25	4.6
	合計	539	100.0%

問 7. これらの情報を見る、見ないにかかわらず、その理由があればご記入ください。

《省略》

気象庁から、大雨警報、暴風警報など、気象に関する警報が発表されることがあります。

問 8. この「警報」とはどのような意味を持つ情報だと思いますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	災害が起るほどではないが念のため注意することを呼びかける情報	30	5.6
02	災害が起るおそれがあることを注意する情報	214	39.7
03	重大な災害が起るおそれのあることを警告する情報	247	45.8
04	非常に危険な状況になったので避難を呼びかける情報	35	6.5
05	わからない	13	2.4
	合計	539	100.0%

問 9. お住まいの地域に、気象に関する警報が発表されているかどうかについて、日頃から関心をお持ちですか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	強く関心を持っている	150	27.8
02	少しは関心を持っている	318	59.0
03	あまり関心を持っていない	60	11.1
04	全く関心がない	11	2.0
	合計	539	100.0%

問 10. 気象に関する警報は、どの程度の地域的な広がり単位として発表されていると思いますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	県単位くらい	31	5.8
02	県内を複数の地域に区分するくらい	233	43.2
03	市町村単位くらい	182	33.8
04	市町村内をさらに複数の地域に区分するくらい	69	12.8
05	わからない	24	4.5
	合計	539	100.0%

気象庁から発表される警報は、現在は都道府県内を数区域に区分して(二次細分区と言います)、区域を単位として発表されています。(例:東京 23 区西部に大雨警報を発表)

参考:警報などの発表区域(気象庁 HP)

<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/saibun/index.html>

今年(2010 年)の 5 月末からは、区域がさらに細分化されて、個別の市町村を単位として発表されるようになります。(例:東京都千代田区に大雨警報を発表)

参考:大雨や洪水などの気象警報・注意報の改善について(気象庁 HP)

http://www.jma.go.jp/jma/press/1001/26a/sichouson_keihou.htm

問 11. あなたはこのことをご存じでしたか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	知っていた	79	14.7
02	知らなかった	460	85.3
	合計	539	100.0%

問 12. 気象に関する警報が、市町村を単位として発表されるようになることは、現在(県内を数区域に区分しての発表)と比べて、あなた自身にとって参考にしやすくなると思いますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	現在よりも参考にしやすくなる	326	60.5
02	現在と変わらない	146	27.1
03	現在よりもむしろ参考にしにくくなる	25	4.6
04	わからない	42	7.8
	合計	539	100.0%

問 13 項目 1. 気象に関する警報が発表されたことを知るための情報メディアとして、あなたは何を思うと思いますか。
-もっとも利用する

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	テレビ(一般放送)	373	69.2
02	テレビ(データ放送)	35	6.5
03	テレビ(ワンセグ)	6	1.1
04	ラジオ	7	1.3
05	インターネット(パソコンから)	83	15.4
06	インターネット(携帯電話から)	17	3.2
07	登録制の災害情報メール	4	0.7
08	行政機関からの放送	10	1.9
09	家族や近所の人からの口頭連絡	4	0.7
10	その他のメディア	0	0.0
11	そもそも警報の発表について知ろうと思わない	0	0.0
	合計	539	100.0%

問 13 項目 2. 気象に関する警報が発表されたことを知るための情報メディアとして、あなたは何をしたいと思いますか。
-二番目に利用する

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	テレビ(一般放送)	78	14.5
02	テレビ(データ放送)	53	9.8
03	テレビ(ワンセグ)	18	3.3
04	ラジオ	74	13.7
05	インターネット(パソコンから)	231	42.9
06	インターネット(携帯電話から)	36	6.7
07	登録制の災害情報メール	10	1.9
08	行政機関からの放送	21	3.9
09	家族や近所の人からの口頭連絡	14	2.6
10	その他のメディア	4	0.7
11	そもそも警報の発表について知ろうと思わない	0	0.0
	合計	539	100.0%

防災については、いくつか異なった考え方があります。以下ではいくつかの論点について、それぞれ対立する二つの考え方を挙げます。

仮にあなた自身が災害に直面する当事者だったと仮定して、あえてどちらか一方を選ぶとすれば、どちらに賛成されますか。

問 14. 大雨による災害時の避難勧告について

※「避難勧告」とは、災害時に市町村役場から出される、住民に対して避難を呼びかける情報のことです。ここで「空振り」とは、避難勧告等を出したが結果的に何も被害が発生しなかった状態を指します。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	避難勧告は、結果的に「空振り」に終わってもよいから、できるだけ積極的に出すべきである	411	76.3
02	避難勧告は、「空振り」になると非常に迷惑なので、できるだけ慎重に出すべきである	128	23.7
	合計	539	100.0%

問 15. 大雨による災害時に避難を開始するタイミングの判断について

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	避難を開始するタイミングは、最終的には住民が判断すべきであり、行政の仕事はそれをサポートすることである	191	35.4
02	避難を開始するタイミングを住民が判断することは難しいので、行政が責任をもって判断すべきである	348	64.6
	合計	539	100.0%

問 16. ハザードマップについて

※「ハザードマップ」とは、大雨によって生じる浸水の範囲や規模など、予想される災害の姿を地図上に色や記号などで示した図のことです。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	ハザードマップは、災害時の備えを考える上で役に立つので、積極的に公開すべきだ	503	93.3
02	ハザードマップが公開されると、地域のイメージが悪くなったり、地価が下がったりするかもしれないので、公開は慎重であるべきだ	36	6.7
	合計	539	100.0%

問 17. 川から水が溢れるなどして、道路の上を激しく水が流れているとします。水の深さが、どれくらいまでだったら、水の流れの中を歩いていけそうだと思いますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	くるぶしくらい (10cm 程度)	249	46.2
02	膝下くらい (30cm 程度)	164	30.4
03	膝くらい (50cm 程度)	34	6.3
04	股くらい (80cm 程度)	5	0.9
05	胸くらい (1m 以上)	0	0.0
06	深さに関わらず激しい水の流れの中は歩けない	75	13.9
07	わからない	12	2.2
合計		539	100.0%

問 18 項目 1. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-家具類の固定・転倒防止

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	197	36.5
02	行っていない	342	63.5
合計		539	100.0%

問 18 項目 2. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-携帯ラジオの用意

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	288	53.4
02	行っていない	251	46.6
合計		539	100.0%

問 18 項目 3. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-懐中電灯・ろうそくの用意

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	400	74.2
02	行っていない	139	25.8
合計		539	100.0%

問 18 項目 4. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-非常用食料・飲料水の備蓄

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	258	47.9
02	行っていない	281	52.1
合計		539	100.0%

問 18 項目 5. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-避難場所がどこか、確認している

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	359	66.6
02	行っていない	180	33.4
合計		539	100.0%

問 18 項目 6. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-避難場所への経路(行き方)を確認している

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	291	54.0
02	行っていない	248	46.0
	合計	539	100.0%

問 18 項目 7. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-非常時の連絡方法などを家族で話し合い決めている

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	171	31.7
02	行っていない	368	68.3
	合計	539	100.0%

問 18 項目 8. あなたの家では、災害に備えて何か準備・実行していますか。以下の中で、準備しているものを全てお選びください。

-町内会や自治体が行う防災訓練(学校・職場での訓練は除く)に何度も参加している

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	行っている	94	17.4
02	行っていない	445	82.6
	合計	539	100.0%

問 19. 現在のお住まいの形態は、次の中ではどれに該当しますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	持ち家	319	59.2
02	賃貸	189	35.1
03	社宅・寮	27	5.0
04	この中では該当しない	4	0.7
	合計	539	100.0%

問 20. 現在のお住まいの階数は、次の中ではどれに該当しますか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	一戸建ての平屋	26	4.8
02	一戸建ての2階建て以上	259	48.1
03	集合住宅の1階	59	10.9
04	集合住宅の2階以上	192	35.6
05	この中では該当しない	3	0.6
	合計	539	100.0%

問 21. 現在のお住まいに住むようになってからの年数をお答え下さい。 ※正確にわからない場合およその数字で結構です。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	1 年未満	43	8.0
02	1 年以上～3 年未満	66	12.2
03	3 年以上～5 年未満	69	12.8
04	5 年以上～10 年未満	120	22.3
05	10 年以上～20 年未満	119	22.1
06	20 年以上～30 年未満	66	12.2
07	30 年以上～40 年未満	38	7.1
08	40 年以上～50 年未満	9	1.7
09	50 年以上	9	1.7
合計		539	100.0%

問 22. 1 週間あたりのインターネット利用時間は平均しておよそどのくらいですか。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	1 時間未満	15	2.8
02	1 時間以上～5 時間未満	127	23.6
03	5 時間以上～10 時間未満	119	22.1
04	10 時間以上～20 時間未満	82	15.2
05	20 時間以上～30 時間未満	82	15.2
06	30 時間以上～40 時間未満	46	8.5
07	40 時間以上	68	12.6
合計		539	100.0%

◆あなたご自身についてお伺いします。

F1. 性別をお選びください。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	男性	282	52.3
02	女性	257	47.7
合計		539	100.0%

F2. 年齢をお選びください。

No	選択肢	回答数	比率(%)
01	10 代	4	0.7
02	20 代	72	13.4
03	30 代	168	31.2
04	40 代	174	32.3
05	50 代	85	15.8
06	60 代以上	36	6.7
合計		539	100.0%

大雨による災害と防災情報に関するアンケート 報告書

2010年4月30日発行

著者・発行者 静岡大学防災総合センター牛山研究室
照会先 静岡大学防災総合センター 牛山研究室 (准教授 牛山素行)
〒422-8529 静岡市駿河区大谷 836
電話&FAX : 054-238-4546
E-mail : ushiyama@disaster-i.net
URL : <http://disaster-i.net/>